

大島満吉さん

1935(昭和10)年12月2日生まれ

民間人

満州



●父は満州に夢を持ち、1935年から旧・満州の興安南省・興安街で建築業を経営していた。私は3才で父に呼ばれた。そこで終戦まで家族全員で暮らした。

●1945(昭和20)年8月9日 ソ連参戦 ●1945(昭和20)年8月10日 11日 初めての空襲 空が暗くなる程多くの飛行機が低く飛んできて爆弾を落とした。エンジンのうなる音、破裂する爆弾、家まで入ってくる土砂、とても恐ろしかった。一遍で世の中が変わった。●街の人口は約3万人、そのうち日本人約3千人、その中で軍関係者約400人、残りが民間人。●1945(昭和20)年8月12日 空襲後、開戦して、急遽避難を開始することになる。街全体を半分ずつ分けて1200人ずつ 軍関係は11日から移動していた。兵隊が井戸水をもらいにきたり鉄砲を教えてくれたりした。●父は奉公隊として役所に行っていた。2時頃爆撃が終わり3時か 4 時頃隣組から出発するといわれる。●母が3歳の妹みつこを背負って小5の兄と6才の弟と避難することになった。●広場に6時くらいに到着した。半分くらいしか集まらなかった。高綱隊は一部列車で移動、私達浅野隊は歩く事になった。当初予定していた馬車での軍のバックアップもなく私達民間人だけで移動するしかなかった。とにかく興安を脱出するために夜の9時に出発、●浅野隊は当初はジャライトキに向けて歩いていたが100kmは無理だという事でラマ教の寺院がある葛根廟に方向転換をした。●12、13日と山の中を行く。一緒に連れてきた元気な犬のちびが出産し置いていくしかなかった。悲しくて泣いた●何人も子供を連れた人たちが私たちのリヤカーに荷物を載せてくださいと頼むのでリヤカーごとお渡しした。そのため私たちは手ぶらになりいつの間にか1200人の先頭になっていた。

【葛根廟事件】

●8月 14 日葛根廟が目前になった。指揮官が2kmになった隊列を整えるため休憩すると言った。母が重たかったよみっちゃんといいながら背中から妹を学童用の外套の上に降ろした。その時指揮官が「戦車だ!逃げろー!」と叫んだ。見ると丘の稜線に戦車が2車両現れこちらに移動してきた。私達は先頭で草原の中隠れる所はなく何が何でも離れなければと200m坂下に走りまくった。そこに大きく長い壕があり飛び込んだ。下の方に大勢の集団がいた。戦車は勢いよくガラガラとすごい音をさせて攻撃してきた。私たちは砲弾と機銃の真ただ中に置かれた。耐えるに堪えてじっと壁にへばり付いていた。●戦車が襲撃してきて一時間くらいして静かになった。戦車のガタガタガタ音はなくなって単発的にパーンパーンという鉄砲の音は聞こえた。●母親が突然私の頭を押さえた。どうしたんだろうと思ったら壕にソ連の兵隊が降りてきてしまった。集団の中に鉄砲をもった日本人の男の人がいた。女性達もう助かる見込みはないとその人に「私を撃ってください。私を殺してください」と大変な騒ぎになった。ソ連兵が一斉にそこへ向かって襲撃した。私の5-6メートル真後ろでバタバタと30-40名の人が死んだ。伏せながらソ連兵が先へ進んでいった。その後一時間くらい耐えて居た。そのうちドカーンという全部終わったよという様な合図音がした。気が付いたときは回りで生きているのが自分の家族しかいなかった。●母はどうとう覚悟をして、ちっちゃいみつ子を背中から降ろして首から血を流している在郷軍人の日本刀を借りるために抜いた。その人が気が付いて奥さん生きるんです、と一生懸命母に口説いていた。でも母は絶望していた。食糧もない。興安も葛根廟も行けない。父もいない。兄もいない、子供3人連れて行くことはできなくなったので申し訳ないけどみっちゃんごめんね、お母さんもすぐ行くからねとみつ子ののどに刃をあててしまった。その後みつ子の顔を母はハンカチで覆って最後の別れのお祈りをしていた。●死ぬ人は7時に壕で集まるということで場所をとって順番待ちをする。小山校長の4人の子供が最後だから晩さん会をやろうといった。よう子ちゃんがリュックからうめぼし角砂糖私にそうめんの棒をつまんで食べさせそんないたずらをしながらはやしたてた。夜の8時9時になった。私達が刺殺で並んだところに3人くらいの軍人がごめんなさいといって一人ずつ突いて行った。一人が10人ずつ殺すと疲れるのであと残り15人くらいで一息いれようとなって煙草を吸い始めた。その時人が入ってきて私の顔を確かめるようにのぞいてくる。その時「あっお前たち生きてたのか」と。父だった。●父に助けられ新京へ向かった。知人の中国人に会い助けられながら草原を歩いた。民兵に射殺される寸前に中国人のおばあさんが命を助けるよう説得してくれた。チンタオから新京の収容所を経て1946年10月1日帰国。

(取材日:2015年5月16日)

※【葛根廟事件】同級生4年生約20人のうち10数人が亡くなった。1200名中翌年日本に帰ってきたのが約110名。事件直後生き残った約400人のうち約80人自決。約30名残留孤児に。約110名帰国。他草原を脱走中に死亡。